

(第3種郵便物認可)

長

崎

新

スペイン世界と文化交流を

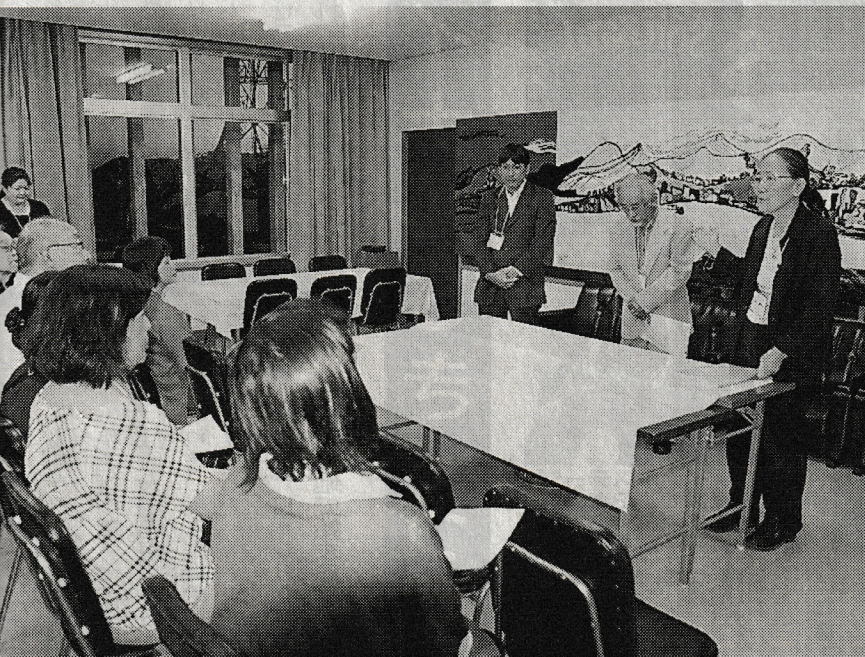
長崎で「友の会」発足

スペイン語を公用語とする国々との文化交流を目指す「長崎スペイン世界友の会」が発足した。スペインや中南米諸国の文化への理解を深め、民間レベルの親善交流を促進しようと活動する。

設立総会は12日、長崎市西坂町の日本二十六聖人記念館であり、26人が出席。長崎外国語大名誉教授の田村美代子さん(68)を会長に選出した。田村会長は「同じような関心を持つ人がつなげる会に成長できれば」とあいさつした。

今後の活動予定として、スペインの芸術をテーマにした文化講演会と音楽会、留学生の話を聞く会、初心者向けスペイン語講座の開催などに取り組む方針を打ち出した。

スペイン語はメキシコやアルゼンチンなど中南米諸国の公用語で言語人口は4億人を超す。同会によると、九州では本県と



活動方針などを確認した「長崎スペイン世界友の会」の設立総会
＝日本二十六聖人記念館

講演会、音楽会など活動予定

佐賀県だけにスペイン語圏との親善交流団体がなかった。

長崎は16世紀にスペイン人宣教師トルレスが見いだして開港した町。1950～60年代には中南米のポリビアへ多くの県民が移住するなどスペイン語圏と本県の歴史的なつながりは深い。

だが、数年前にスペイン交流史研究者が長崎市にシンポジウムの開催を打診すると「ポルトガルやオランダと交流しているので関心がない」と担当者も回答したという。今春には長崎外国語大が前身の長崎外国語短大以来49年間続いていたスペイン語文化コースを廃止した。

田村会長は「スペイン世界と長崎の深い関係を大切にしたい」と話す。同会の設立には、県美術館(長崎市出島町)が所蔵するスペイン美術の「須磨コレクション」を受け入れに尽力した元県立美術館学芸員の徳山光さんと、スペインに留学して菓子作りを学んだ西彼時津町の洋菓子店主・山口正見さんが協力した。

設立総会に参加したスペイン・マドリード市出身の丹沢マリナさん(52)＝平戸市＝は「来日して30年以上になるが、長崎でこのような機会を得られて本当にうれしい。互いの文化を学ぶのはとても重要なこと」と話した。

同会は個人と法人の会員を募っている。問い合わせは同会事務局(電095・844・3318)。ホームページ(htt p://hpop.fiw-web.jp)も開設している。